



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2019年2月10日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:5名(うち子ども2名)、

指導員:5名

テーマ 「冬の木曽川周りには何かいるだろうか」

朝、集合した時、かなり風が強く気温は5℃でしたが、体感温度は氷点下といった感じの寒い日でした。こんな状況では、虫が動き出すことは期待薄でしたので、駐車場付近でジョウビタキ、シジュウカラなどの小鳥を観察してから、川原に向かいました。高水敷に生えていたアカメガシワ、ヌルデ、クワなどの雑木が伐採され、すいぶんすっきりした(生物の生息環境としては面白みに欠ける)状態になっていました。春にどのような植物が出てくるか注意してみたいと思います。

川に目を向けると、このところまとまった雨が降っていないせいか、南派川は水の流れが枯れ、川底の玉石がむき出しになり、これまで見たことのない光景です。わずかに水たまりになったところで、親子連れが網で魚などを採っていました。見せてもらおうとバケツの中にコイ科の稚魚、スジエビ、ヌマエビ、モクズガニが数匹入っていました。

川原のヤナギの枝に見慣れない1cm程の球状のものがついていました。調べてみるとヤナギマルタマバエが作るヤナギエダマルズイフシという虫こぶでした。いつでもできて、どう変化していくか観察するとおもしろいかなと思いました。

さて、この時期、少し下流にある木曽川橋付近(一宮市北方町)にコハクチョウの群が飛来しているということ

ことで、138タワーパークの観察を早めに切り上げて見に行きました。コハクチョウが餌を採りに出かけていて、空振りという心配もありましたが、運よくワンドの沖合の中洲に灰色を帯びた体色の若鳥を含め21羽が休んでいるところでした。ただ、普段ならこの辺りの木曽川の沖合にカモ類が浮かんでいる姿があるのですが、この時は1羽も見られませんでした。今季は木曽川に飛来しているカモが少ないような気がします。(報告:齋竹)



観察会のようす:スジエビなどを見ているところ



人懐っこいジョウビタキ



ヤナギエダマルズイフシ



コハクチョウを観察



木曽川のコハクチョウ

<その他観察できたもの>

鳥:ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ドバト、トビ、ハクセキレイ、モズ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ(声)